



◆ 第2回定例幹事会

◆ クラブ活動報告

- ▶ 山遊会
- ▶ カメラ・ビデオクラブ
- ▶ グランドゴルフクラブ

◆ 堀場OBベンチャー&ボランティア部会

- ・ 定例「鴨川クリーンハイク」に参加
- ・ 鴨川を美しくする会主催「鴨川茶会」に参加
- ・ 鴨川を美しくする会「鴨川納涼」に参加
- ・ ボランティア活動着用「ユニフォーム」を作成
- ・ ボランティア活動に参加お願いします!!

◆ NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会

- ・ 連合会活動に参加
 - ▶ 鳥羽水環境保全センター見学会に参加
- ・ 新現役チャレンジ支援事業について
- ・ エコメイト活動報告…酒井 俊英

◆ OB会行事報告

・ レジャー例会

- ▶ 桜満開（八幡市背割桜）
 - ▶ 長浜散策（長浜盆梅展）
 - ▶ 堀場製作所びわこ工場見学・ミニ懇親会
- ・ 一泊旅行…北陸のゆどころ
 - ・ 冬の懇親会
 - ・ 東京支部活動報告（一泊旅行実施）

◆ 会員寄稿文

- ・ デトロイトは生き残れるか?… 塚本 時弘
- ・ 北極ルートを開拓したSASの偉業
…寺西 英三

◆ OB会連絡

- ・ 新入会員紹介
- ・ 新入会員懇談会開催
- ・ 会員の訃報
- ・ 第14期年次総会ご案内
- ・ 堀場OB会ホームページ閲覧について

◆ ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

◆ 編集後記



祇園祭・・・〔岩戸山〕

祇園祭は八坂神社の祭礼で、大阪の天神祭・東京の神田祭とともに、日本三大祭の一つと言われ、約1100年前、神泉苑に日本全国の数の鉾66本を立て、災厄の除去を祈ったのが始まりです。写真は、岩戸山（天の岩戸に由来）の威勢の良い掛け声で今年のインフルエンザ渦と不況の退散を祈念しましょう。

第2回定例幹事会

平成21年6月19日（金）OB会室にて、今期第2回の幹事会が開催されました。

出席者は、小谷昌男、山本広太郎、梶並強平、萩原孝一、田中光子、酒井俊英、川越幹、谷口義晴（東京支部）以上8名で、欠席者は横川修二氏でした。

前半の議題は、今期の諸活動についての進捗状況と予算の執行状況で、諸活動はHPでも報告していますが、期首のスケジュール通り実行され活動は活発でした。しかし予算の支出については、コストパフォーマンスよく実行されたので、今期後半に支障は無い模様で、今後会社からの補助金情勢を考慮して、予算残を大切にしておくことになりました。

今期後半の具体的な諸活動予定については、各クラブも引き続き実行されますが、ここでのグッドニュースとしては、新規入会の西田裕一氏が「釣りクラブ」を結成されることになりました。興味のある方は、是非とも参加して下さい。

ベンチャー&ボランティア部会は、祇園祭り宵山ボランティア（7/14, 15, 16）への協力を行います。内容はごみ清掃等ですが、活動要領は後日連絡されます。

堀場製作所びわこ工場見学とミニ懇親会（6/24）が実施されます。現状20名の参加予定です。・夏の懇親会は（8月2日）「がんこ」にて実施されます。会社から山下部長も出席頂き、会社の現状をお聞きします。現状33名の出席者を予定しています。

後半の議題は、第14期の事業計画・予算策定で、事業計画・予算策定原案について、7/17の幹部会にてまとめるため、7/10までに各活動責任者から基本活動計画と予算計画を提出して頂くことになりました。関係する方々はご協力をお願いします。

また、今回は、会則変更に関する件（年次総会承認事項）があり、①入会年度別代表者の選出、②準会員の設定（75歳以上者の要望を聴取）③年会費未納者の退会（2期連続未納入者に対し督促しても尚未納入者）を予定していますので、よろしくをお願いします。第26号会報発行については、7/17を予定し、幹事が発送作業を行います。尚、寄稿文に対する謝礼は、従来から会報発行後に行っていることを再確認しました。HPの刷新についても現在検討中で、画面も一新する予定で、ご期待下さい。

第14期年次総会は、平成21年10月30日（金）13:00～（最高顧問及び社長に出席頂く）に開催します。是非とも全員の参加をお願いします。今回の最重要検討事項は、現幹事の交代時期がとっくに過ぎ、老化現象も激しく、これ以上現幹事では運営不可能になって来ており、益々会員も増加する我がOB会の次代を担う幹事候補者を全員で検討願い、推薦頂くことにあります。

そのため、第3回幹事会を平成21年9月18日に開催し、年次総会の内容を決定することになりました。

クラブ活動

山遊会

— 第9回例会 —

- ・開催日：平成21年4月11日（土）
- ・行先：小塩山(642m)

阪急東向日駅8時30分集合、8時45分発南春日町行きのバスに乗り、終点で下車。正法寺まで歩き身支度を整える。9時20分出発、地図にない間道を登るべく竹藪を横切るが、たちまち深

い藪に迷い込み、竹の子堀にきていた地元の人に聞いて目的の道にでた。9時50分最初の車道と交わるところで小休止。連日25度を超す夏日とあって早くも汗が滴る。再度山道に取り付き、途中一度水分補給の休憩をして稜線にでた。10時50分一つ目のカタクリの群生地を降る。以

前きたときは斜面を紫の花で染めていたが、鹿の食害がひどくまばらに咲いているだけ。次に小塩山の山頂にある淳和天皇陵の右の谷に向かう。こも少し数は多いが似たようなもの。NTTのアン



テナの横の谷は、鹿除けのネットを張って保護し

ているとのことで、来た道に戻りそちらへ向かう。ここでは白いカタクリも一輪咲いていた。再度道を引き返し、12時20分NHKのアンテナの裏側で昼食休憩とする。食後は天皇陵の古墳を一めぐりして、山頂と思しき場所で本日の記念撮影をする。今日は何回か可憐なギフ蝶の飛翔にも出会えたし、13時20分少し早いが出山することとして天皇陵道をとる。正法寺の手前で左に折れ14時20分頃勝持寺(花の寺)へ。西行さくらの見学は又の機会に譲り、大原野神社に立ち寄って南春日町15時15分発のバスに乗車。阪急東向日駅で散会した。

◆参加者：池田 俊明、下川 和子、萩原 孝一、森本 順孝、下川 博司、倉原 政治、丸山 博

— 第10回例会 —

- ・開催日：平成21年5月8日(金)
- ・行先：牛松山「丹波富士」(636m)

JR京都駅嵯峨野線ホームに午前7時50分に集合。8時9分発園部行きに乗車、亀岡駅8時39分着。8時46分発の亀岡市ふるさとバスに乗り、6.7分で北保津に到着登山口へ向かう。登山口にある福性寺の駐車場で準備を整え、9時7分スタート。山頂に金比羅神社があり保津川下りの船頭衆の信仰が篤いとか。この道は参詣道で、よく整備されており、18丁まで丁石が置かれている。気温は高くないが湿度100パーセント無風の気象で汗だく状態、10丁登ったところで小休止。一丁一丁数えながら18丁を過ぎ10時17分ようやく金比羅神社に到着した。絵馬堂には保津川下りの小船が2艘奉納されている。登山の無事を祈り、山頂へ向かう。10時35分到着記念撮影。山頂はNHKのバラボラアンテナがあり、三角点は200メートルほどはなれた場所(629m)にある。下りは三角点を確認して国分の愛宕神社へ、約50分の急坂を降り11時25分愛宕神社に到着した。早昼を済ませ12時丹波国分寺跡を目指し畑の中に行く。振り返れば牛松山が見えるが、山頂あたりはガスが懸かったままで、今日一日は全容を見られそうもない。国分寺は741年聖武天皇の発願により建立されたもので、現在の本堂は1774年にそ

の講堂跡に建てられている。境内にはイヌマキ、ムクノキ、カゴノキなどの名木があるが、中でもイチョウは「乳銀杏」として知られている。次に2キロ程北にある丹波国一之宮出雲大神宮に向かう。途中櫻の名所である七谷川を渡る、今は新緑が美しい。出雲大神宮は島根県にある出雲大社の元になる神宮で、国譲りの神事により709年に造宮されたとか。本殿は鎌倉末期の再建で重文に指定されている。磐座や古墳、摂社等をめぐり、神社前14時21分発のふるさとバスで千代川駅へ出た。千代川駅発14時55分、京都駅着15時23分で戻り散会した。

◆参加者：池田 俊明、下川 和子、萩原 孝一、下川 博司、丸山 博



カメラ・ビデオクラブ

平成21年4月4日（土）京都府八幡市にある河川公園の「背割堤」にて、雨模様の中桜の撮影会を併催しました。レジャー例会の参加者と合わせて15名、一行は男山山上にある石清水八幡宮を参拝、その桜を撮影したあと、同神社の清峯殿にて松花堂弁当を頂き、午後から目的地の「背割堤」に徒歩で移動しました。ここは、宇治川が淀川に合流する地点の堤約1.4Kmにわたってソメイヨシノが植わっています。

生憎当日は、曇天の雨交じりの天候で花も満開ではありませんでしたが、往復約3Kmもの長い桜のトンネルの散策は、大変写し甲斐がありました。最後に記念写真をサービスして例会を終えま

した。（参加クラブ員 萩原孝一、川越 幹）



グランドゴルフクラブ

グランドゴルフクラブは、クラブ結成以降、今年の5月で実活動回数も11回を数えました。現在クラブ員は、13名でプレイの場所は堀場製作所の裏にある宮の森公園です。以前から同公園で楽しまれている近隣のご町内の方々にも大変お世話になっています。

活動は、毎月、月末の（土）の午後1時から行っています。グランドゴルフは、誰でも簡単にプレイ出来ますので、OB会員の飛び入りは大歓迎です。手ぶらで参加できます。

ゲームを簡単に説明しますと、グランドゴルフは、専用のクラブ、ボール、ホールポスト、ス

タートマットを使用して、ゴルフと同じようにボールをクラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を競います。どこでも、だれでも手軽に楽しむことができます。

また、ゲームを楽しむためには必ずしも高度な技術を必要としません。子供から高齢者まですべての人が、楽しくプレーすることができます。

尚、プレイの30分前から、ミニボランティア活動として、会社の周辺や公園内のゴミ拾いを行い、少しでも社会に役立つことも実施しています。

堀場OBベンチャー&ボランティア部会

— 第1回定例鴨川クリーンハイクに参加 —

市民団体「鴨川を美しくする会」主催の平成21年度1回目の鴨川クリーンハイク（定例）が4月29日に団体、個人の約50名が参加により開催され、堀場製作所OB会も7名の会員が参加しました。

好天の中、五条大橋から丸太町橋間の河川敷、川端通り約2.5kmをハイク気分でごみ拾いを行い、さわやかな汗をかきました。

堀場製作所OB会は本年度より団体会員として登



録、継続して行事に参加していきます。

◆参加者：川越 幹、小谷 昌男、周田 光男、

池田 俊明、宮崎 育雄、宮本美津子、山本広太郎

— 第2回定例鴨川クリーンハイクに参加 —

6月7日（日）に市民団体「鴨川を美しくする会」主催の平成21年度2回目の鴨川クリーンハイク（定例）が団体、個人の約50名の参加により開催されました。堀場製作所OB会からも5名の会員が参加、五条大橋から丸太町橋間の河川敷2.5kmをハイク気分でごみ拾いを行い、さわやかな汗をかきました。河川敷の道端には目立ったごみは意外と少なく利用する市民の意識も高まってきた感じがします。このハイクはごみ拾いが目的ではありますが、この姿を市民に感じとってもらい、ごみを捨ててはいけないという意識を高めてもらう狙いもあります。

堀場製作所OB会は本年度より団体会員として登録、今後も継続して行事に参加していきます。ボランティア部会に加入されていない会員の皆様

も気軽に参加いただくようお願いします。

◆参加者：小谷 昌男、大志万継影、周田 光男、酒井俊英、山本広太郎



— 鴨川を美しくする会主催「鴨川茶会」に参加 —

桜満開のさる4月11日、12日、京都府立植物園西側、鴨川東側沿いの河川敷公園で市民団体「鴨川を美しくする会」と「京都鴨川ライオンズクラブ」主催の「鴨川茶店」が開催され、堀場製作所OB会として「鴨川を美しくする会」に団体登

事で、隣接の京都府立植物園の桜見物の傍ら訪れる人も多く（昨年は15万人）河川敷に設けられた出店も大層な賑わいで、京都府警平安騎馬隊による子供向け試乗会、子供達によるバトントワリング、2日目には京都市立加茂川中学校吹奏部による演奏が茶会に花を添えました。

河川敷公園に設けられた特設ステージでは尺八や琴の演奏が行われ、門川市長も来賓でお越しに



録して初めての参加で、メンバー6名が2日に別れ参加しました。

「鴨川茶会」は今年で35回目の歴史のある行



なり楽しまれていました。

今回は100名近いボランティアが参加されゴミ拾い、ゴミ分別、駐車場整理などを担当、堀場OBメンバーは、駐車禁止エリアの管理を担当しました。

京都府立植物園の駐車場が満杯（1～2時間待）のため駐車禁止エリアに流れて来ないようガードが主たる役割で、特に大きな問題もなかったが、周辺観光地への行き方等を尋ねられ土地勘に疎いと正確に教えられず苦慮したことが今後の反省点でした。

2日目に事件が発生、立て看板や夜間照明ランプ9個が外され叩き壊され 芝生の「のり面」や堀場担当エリアにガラスの破片が散乱！ 空き缶やゴミに至るまで警察の許可を得るまで 触る事も許

されませんでした。犯人は分からず「夜間照明」に反対する人か、若者だろうとのことでした。

早朝から午後3時半の間、炎天下で立ちっ放しのシニアには負担の大きい仕事でしたが、苦しい半面、有意義な1日でした。今回参加いただいた皆様、ご苦労さまでした。

今後も「鴨川を美しくする会」主催の鴨川清掃行事に継続して参加します。

健康のためにも、他のボランティアグループの皆様との交流を図るためにも会員の皆様の参加をお願い致します。

◆参加者

1日目：川越 幹、小谷 昌男、山本広太郎

2日目：周田 光男、池田 俊明、澤田 嘉行

— 鴨川を美しくする会主催「鴨川納涼」にボランティア参加します —

第40回「鴨川納涼」が開催されます。種々のイベント、特設ステージの催し、京都府内や全国の特産品展示即売コーナーが設けられ、毎年10数万人の市民が訪れます。この会場の安全管理、会場整理に堀場OB会より延10人がボランティアで参加します。

・開催日：8月8日（土）17時～22時

9日（日）16時30分～9時30分

・開催場所：鴨川三条大橋～四条大橋西岸川敷

— ボランティア活動着用ユニホーム—を作成 —

ボランティア活動時に着用するユニホームを堀場製作所より寄付いただきました。

背中にH O R I B A、胸に堀場OB会のロゴが入った堀場カラーの夏用のベスト、冬用のジャン

パーで、今後の活動時に着用します。

ボランティア活動の場で、堀場製作所の広告媒体として貢献できればと思っています。

— ボランティア活動に参加お願いします！！ —

第12期より「堀場OBベンチャー&ボランティア部会」が発足、部会登録者の積極的な活動参加により「鴨川を美しくする会」活動を進め、13期より堀場OB会として団体登録し活動も定着して来ました。

新たな活動として「美しい祇園祭をつくる会」の要請により宵山でのボランティア活動に参加しました（活動状況はホームページで公開します）

第14期には環境をテーマに活動を広げて行く

事を検討しております。

このためには部会登録者だけではパワー不足であり、ボランティア部会メンバー以外の皆様の積極的な参加を是非お願い致します。

ボランティア活動はスキルに関係なく、協力の精神で参加いただける活動です。是非、ご協力いただきますようお願い致します。

◆ お問い合わせは小谷副代表まで

E.Mail : kk-masa-k@tea.ocn.ne.jp

連合会活動に参加

— 鳥羽水環境保全センター見学会に参加 —

平成21年5月27日（水）午後、KSVU加盟クラブ員一行27名（堀場OB会は5名）は、京都上鳥羽にある「鳥羽水環境保全センター」を



見学しました。

この見学会はKSVU加盟クラブの出身企業を順次、見学しており、今回は京都市シルバーベンチャークラブの企画で実施されました。

同センターは、京都市の西南部、鴨川と桂川に挟まれたところにあり、京都市のメインの処理場として、西日本最大の規模を誇っています。当日は、排水処理管理の山川課長様の事前レクチャーと処理工場の現場見学を受け、また活発な質疑応答を行いました。

ここでは、下水処理のみで無く、雨水との混合水を処理するため、雨の日と晴れの日では、その処理量が大幅に変わるそうです。基本的な処理の流れは、沈殿池とエアレーションそして微生物浄化の工程を経て、最終出口にて塩素滅菌後、桂川

に放水されています。これが淀川を経て大阪に入



り、浄水（水道）にされるため、堀場のPHメーター等で厳しく排水管理がされていました。京都市では、その他5か所の浄化センターがあり、連携して都市の浄化管理をされている様でした。

（合計処理量137万立法メーター／日）

一般への留意事項としては、油の浄化が大変なので、私たち家庭では、天ぷら等の油をそのまま流さず、フライパンの油等を紙で拭きとって、燃えるゴミとして廃棄すれば、下水浄化の負荷が軽減されるそうなので、私たちの協力が処理費用の削減にも繋がるということを理解しました。

同浄化センターは、広大な敷地を持ち、交通の大変不便なところにあり、皆様大汗をかきながらの見学会となりました。

◆堀場OB会参加者：

小谷 昌男、萩原 孝一、宮崎 育雄、船越 健、川越 幹

新現役チャレンジ支援事業について

平成15年度より始まった国の委託事業「企業等OB人材マッチング事業」は平成19年度で終了、平成20年度より規模を拡大、「新現役チャレンジ支援事業」に名称を変えスタート、2年目の活動に入りました。従来の企業等OB人材は退

職したOBに限定されていましたが、新現役は、退職された方や近く退職を予定されている方と支援する人材の枠を拡大し、地域の中小企業や各団体のマッチングを図る全国的な事業です。「新現役」が今まで培ってこられた豊富な技術・ノウ

ハウ・ネットワーク等を活用して、地域の中小企業や各種団体を支援していただくことを目的としています。

堀場OB会では6名の会員が登録されています

が、数多くの会員の皆様に活動していただくよう期待しています。

関心のある方は、山本宛にお問合わせ下さい。

◆メールアドレス h.yamamach@gmail.com

エコメイト活動報告 酒井俊英

今年4月から、エコメイトとしてボランティア活動に参加することができましたので、エコセン



{写真1 玄関の外壁の絵}

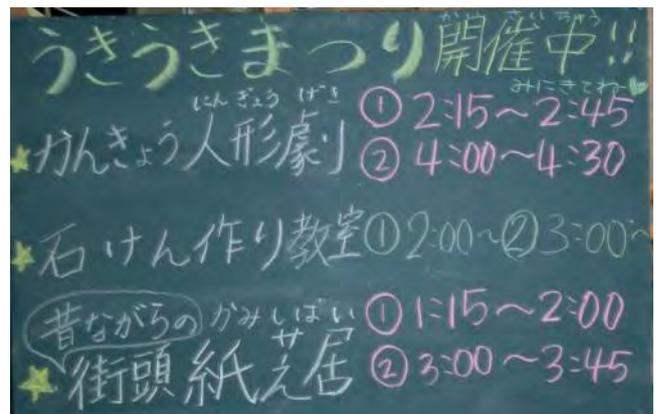
と、エコメイトの活動についてご紹介したいと思います。先輩の周田さんや、石黒さんには恥を覚悟で書かせていただきます。

エコセンは正式には財団法人 京都市環境事業協会の管理の下で、京都市環境保全活動センター(京{みやこ}エコロジーセンター)と言われます。
(<http://www.miyako-eco.jp>) 詳しくはこのホームページを御覧ください。このエコセンは建物自体

加温により省エネになっています。また、天井や床のコンクリートには管が敷いてあって冷水、温水を流して部屋の冷暖房が行われています。その他断熱の工夫や、地熱の利用、雨水の利用など、省資源、省エネルギーがなされています。

ここで面白いのは館長の高月先生が書かれるエコミック(エコ+コミックの略)です。ペンネームは”High Moon”. 玄関の上の壁に描かれたマンガが写真1です。

私が気に入っているマンガは、最近の”休日のETC車の高速道路通行料1000円”を皮肉ったマンガ



{写真2} です。

絵は言葉より直感で人々に訴える事が出来ますし、万国に通じる言葉ですからとても効果的です。

エコメイトはこのエコセンの館内の案内活動と、それによるECOの啓蒙、普及の教育を担っています。任期は3年で、その後はエコサポーターとして同様の活動ができます。エコメイトは毎年9月20日頃から2月末頃までの講座の後、実地訓練を経て、誰でもなれます。講座ではチーム活動の能力が訓練されます。個人個人のやる気を高め、人間関係づくりの心構えを教育されます。これはやはり、エコメイト同志のチーム活動や、訪問される初対面の人とのコミュニケーションのス



写真2

が展示物というコンセプトの示すとおり、様々な工夫がされています。屋上には太陽光発電パネルは勿論、屋根のパネルにはエチレングリコールが流れていて凍りにくく、夏冬の自然風冷却や太陽熱による

キルが要求されるためです。

4月初めに登録式が有って、正式にエコメイトとしての活動が始まりました。月に2, 3回以上は館内の案内活動として、エントランスに座って入館者



の出迎え、声掛け、案内、見学者の質問に答えたりします。もともと、このエコセンは小学校高学年、中学生等を対象にした内容になっていますが、これは大人が見ても感心します。また、3階にある図書館は、環境問題に関する多くの書籍、DVDやビデオテープなど、エコについての情報は、大変充実していると思います。

京都市では小学生はエコセンを見学して学習することが教育計画に組み込まれているそうです。そんな小学生や、大学のサークル、地域のコミュ

ニティなど様々な団体の見学もあります。

それ以外に、定期的に行われるイベントに参加して大勢の人たちと一緒に体験しながらエコを実践する気持ちを盛り上げることも大事な仕事です。6月21日には「うきうき（雨季と語呂合わせ）まつり」が行われました。この時は各チーム活動・サークル活動の成果を披露する絶好の機会です。以下にチームとサークルの名称を示します。

チームの名称：京えこな塾、自然エネルギー、ビオトープ、暮らし展示、情報チームサークルの名称：家庭の省エネ実践、節水・環境保全

私は現在、土日しかエコセンの活動が出来ませんが、今では折角頂いたチャンスと経験を基に、少しでもエコロジー活動に寄与できるように頑張ろうと思っています。OB会の会員の方で、この京エコロジーセンターのエコメイトになってエコのボランティア活動に参加してみたいと思われる方はいらっしゃいませんか。堀場製作所グループのOB会としても環境ビジネスに関わる堀場製作所グループのバックアップにも繋がることと思いますので、皆さんの積極的な参加を期待します。

OB会行事報告

レジャー例会・・・桜満開(背割桜)

平成21年4月4日(土) 午前10時30分きっかり。今年の開花は、暖冬により予想外の早さになるであろうと・・・満開を期待しつつ、私達一行15名は「京阪八幡市駅」に集合した。先ず隣接の男山ケーブルカーで、山上の石清水八幡宮（やわたのはちまんさん）へ。

平成の大修道で、本殿・舞殿や楼門が2月に完了し、本殿内部や玉纏御太刀、鎗矢など御神宝を初公開の特別拝観期間中で、国の重要文化財の本殿では、丹塗りの柱やヒノキの一枚板で作られた透かし彫りの欄間彫刻など、改修で色鮮やかによみがえった姿がとてもまばゆく壮麗な社殿を拝観さ

せて頂き、仮本殿に移されている御神霊に「ご利益あれ」と参拝した私達でした。そして総門をくぐり、はちまんさんの石灯籠群の参道を、腹時計の知らせもあって、足速に昼食のため「清峯殿」へと向かいました。早くから予約しておいたお陰で素晴らしい個室で、昼食の『松花堂弁当』を、ここ八幡市が発祥の地と言われるだけあって、目で楽しみ、伝統ある味に舌鼓を打ち、大変満足のゆく『松花堂弁当』でした。

いつもながら参加者の食事どきは、ちょっと前?の現役時代の昔話やら、最近の話題で盛り上がる等々、話が尽きず、和気あいあいの中に、

しゃべることしゃべること・・・。

満腹の一行は、次の目的地へとケーブルカーで下山しましたが、散策路を歩いて下りるのも又よいのではないのでしょうか。改札口を出た途端、ポツリ・ポツリ・ザーっと雨が降ってきました。前日から、ちょっと心配していた天気予報ではありましたが・・・大当たり！

再び八幡市駅前を通過して、国道を越え、橋を渡って、傘をさして歩くこと約10分。桜の名所『淀川河川公園 背割堤』へ到着しました。木津川・宇治川が淀川に合流する地点の堤防に植えられた約1.4kmにわたって続く桜並木、約250本のソメイヨシノがトンネルのように“咲き誇る遊歩道を散策しながら大自然の眺望を楽しむ”ことが出来る筈でしたが、当日の開花状況は七分咲き程度で、ちょっと残念ではありましたが、それでも雨の中、ほぼ全員が堤の先端（地元では「剣先」とも呼ばれている）までの往復を散策し、桜並木の写真を撮ったり、河川敷の店で特産品のミカンやヨモギ餅を買うなど楽しませていただきました。

全員集合したところで、桜並木と八幡桜まつり

のアーチをバックに、記念写真をパチリと！その後、八幡市駅近くで解散となり、今年の観桜レ



ジャー例会は無事終了しました。

今回参加出来なかった方も、今後の諸企画には是非参加いただきますように・・・。

◆参加者：

浅島 芳雄、神吉 治、萩原 孝一、林 收、
東 信好、小谷 昌男、周田 光男、川越 幹、
高橋 義治、矢野 久雄、下川 博司、船越 健
澤田 喜行、田中 光子、山本広太郎、



レジャー例会・・・長浜散策

平成21年2月18日(水)に雪が残る長浜市内の観光へと向かいました。

JRびわこ線の長浜駅で堀場製作所OB会のメンバー8名と出会い長浜盆梅ポスポート券(OB会より負担して頂きました)で市内観光めぐりを始めました。

まず始めに慶雲館【明治20年、明治天皇の行在所として長浜の豪商・浅井又蔵氏が建てたもので、その名は伊藤博文公より与えられた。国の指定の名勝庭園、日本最大の芭蕉句碑等がある。】の盆梅展で樹齢350年の梅花/銘木で目の保養し、鉄道スクエア【現存する日本最古の鉄道駅舎で、鉄道の歴史を一望出来る。D51や電気機関車ED70形1号機も展示されている。】へ昔なつかしいSLを見てきました。

雪が残っている長浜市内を歩いていると、我々シニアには寒さが身にしみるとお腹が空いて来ましたので本日の大目的である成駒家の天然鴨すきなべ(骨まで軟らかくおいしい)を食べに行き

ました。

腹ごしらえを終わり午後からは、真宗大谷派の別格別院の大通寺【伏見城の遺構を残し、円山応挙や狩野派の襖絵など重要文化財多数あり、台所門は長浜城の追手門を移したと伝えられている。】の参拝と境内に展示の馬酔木(アセビ)展を見学し、曳山博物館【長浜曳山まつりは、秀吉公が長浜を始めた時からの始まりで4月14日～16日まで開催。日本三大山車まつりです。】と黒壁ガラス館【ヨーロッパを中心とした世界のガラスが展示】をぶらぶらと散策して来ました。

OB会メンバーとしゃべくりながら長浜市内をぶらぶらと歩き、楽しいひと時でした。

又この様な企画をして頂き、皆さんと会える機会を増やして元気な顔を見せて下さい。

◆参加者:

浅島 芳雄、池田 俊明、神吉 治、小谷 昌男、
澤田 喜行、周田 光男、田中 光子、川越 幹



平成21年6月24日(水)朝、22名が参加、出がけは曇り模様だったが、集合場所のJR比叡山坂本駅に到着した頃には太陽も顔を出しかけてきて、自分を含めた先輩諸氏の行ないが良



かったのかなと勝手に納得していた。

駅には、会社差し回しのマイクロバスが早めに待機し、バスのHORI B Aマークが目に入り、迷うことは無かった。車内では、周りの方と近況等を語り合っている内に10分ほどで目的地に到着した。

建物はグラウンドの奥の高台に建設され、一見どこかの研究所と見間違える様な立派なもので、玄関で上履きに履き替えホリバリアンの松木氏の案内でまず屋上へ上がった。屋上からは琵琶湖が一望出来るほどの絶景を前にして一同圧倒された。まずは記念写真をとHORI B AのMLMAPの絵を背景にパチリ、その後、5階から順に各フロ



アの説明を受けた。各階には、かつて一緒に仕事をした事もある懐かしいメンバーに出会い、僅かな時間ではあったが再会を喜び、言葉も交わす事も出来て改めて親交が深まりを感じた。

製造エリアとしては1階のみで、ダイナモの日本仕様への改造や半導体関係の大型機器の組立用に使用されると説明を受けた。2階から上は各種製品在庫や医用製品の試薬保管。試作品や法で保管期間が定められている種々の書類関係、グループ会社の保管品とHTSの自動倉庫、そして物流の出荷用のフロアとなっていた。

ひと通り見学はした感想としては、在庫保管に使うスペースが予想以上に広く出納に携わる人も必要な事が一覧できるので、いままで外部倉庫へ預けていた時の倉庫代がいかに大きかったかが容易に想像出来た。

びわこ工場に従事されている方の大半が滋賀県



在住の方々だと伺ったが、これから梅雨から夏を迎える時期には、駅から歩いてやっと敷地内に着いても、入口からあの坂道を歩いて上がるのは大変だろうなと思うのは、人一倍汗かきの小生だけだろうか。

熱心な見学で少し予定を過ぎたが、本日のミニ懇親会の会場である雄琴温泉「雄山荘」に向かった。到着後、ひとまず温泉に入って汗を流し、見学の疲れをゆっくりと癒したあと、宴会場に入った。幹事の挨拶やボランティア活動への参画協力の呼びかけがあり、早速、賛同される方が続出

し、皆さん意欲の高さが伺えた。

乾杯の挨拶を機に、豪勢な料理と少しアルコールも入り、色々な話題で盛り上がり、充分寛いだ後、宴会場の舞台をバックに記念写真を撮りお開

きとなった。ここからは雄山荘のマイクロバスでJRおごと温泉駅へピストン運転で送ってもらい、ここで解散となった。



一泊旅行・・・北陸のゆどころ

平成21年3月13日～14日、OB会一泊旅行一行15人が北陸あわら温泉憩いの宿「青雲閣」への旅行に参加しました。皆さん温泉好きを自負する兵ものばかりで、大変楽しみにされていた行事でした。ただ生憎両日は、折からの低気圧のせいで、雨と強風が荒れ狂う旅となりましたが・・・。

この宿はNHK「ルソンの壺」でも紹介された話題の「湯快リゾート」の宿で、傾きかけた有名旅館を買い取り、余分なサービスや不必要なものを一切省いて低料金で楽しめることをモットーとして見事再建したグループだそうです。

あわら温泉の近くには東尋坊をはじめ永平寺・ゆの国の森・自動車博物館等々があり楽しみにしていましたが生憎の天候のため、オプションは取りやめとなりました。個人的には家族旅行のときにも訪れてみるつもりです。その分については

何ですが色々な効能があると言われる「あわらの名湯」で、のんびり、ゆったり、身体をほぐしました。中には朝、昼、夜と何回も湯に入られた方もいたようです。また施設のカラオケをはじめ囲碁・将棋・麻雀・インターネットなどすべてが無料ときていて、旅館に缶詰状態でしたが、遊ぶにはことかきませんでした。皆さんカラオケも大変上手で、私も負けずに頑張り本当によく歌えたものです

夜の宴会は「春の創作和会席宴会料理飲み放題」献立も豊富で、特にお酒好きにはたまらなかつたのではないのでしょうか。料理も大変美味しく腹いっぱい頂き大満足でした。

一夜明けての出発は午後2時のため、またまたゆっくりと朝風呂につかり朝食のバイキング料理を楽しみ、囲碁やカラオケを楽しんだり談笑で時をすごし、お土産コーナーでは皆さん家庭サービ

スはこの時とばかりたくさん買い求められていました。なかなか品定めに困りましたが何時の間にかやら手提げ袋に一杯で、これも楽しみの一つとなりました。お昼は館内の軽食ですませ帰路につきました。バスは草津・京都と止まり皆さん降車されました。バスは新大阪経由で帰社入庫されるので、私はそのまま新大阪まで乗せていただきました。お世話下さいました幹事さんやご一緒いた

いた皆様に感謝感謝、ありがとうございました。

次の機会には、今回参加できなかった方々も誘い合わせてご一緒したいものです。

◆参加者：

池田 俊明、小谷 晴夫、南村 義明、神吉 治
萩原 孝一、林 収、東 信好、小谷 昌男、
周田光男、森本 順孝、川越 幹、矢野 久雄、
横川 修二、永田真寿夫、山本広太郎



冬の懇親会

平成21年2月7日（土）昼、いつもの「がんこ高瀬川二条苑」にて、OB会員30名の出席及び会社から山下副本部長をお招きし、盛大に開催されました。

今年初めての行事となりましたが、冒頭山下副本部長からの会社状況説明では、折からの世界経済恐慌の煽りを受けて、本業の方が大変厳しい状況にあり、南極観測への協力やオリンピックのアーチェリー団体入賞等、明るい話題も多々ありましたが、今年はグローバルに全社を挙げて、業績向上に傾注しなければならない状況とのことでした。

尚、厳しい状況の中にも、朽木の研修センター

の拡張工事は完了し、戦略検討の場の強化が図られました。またOB会にも利用して欲しいとのお誘いもあり、相応しい行事があれば利用させて頂きたいとの思いがありました。

続いて、小谷氏からベンチャー&ボランティア部会への協力要請があり、現状と今後の行事への積極的な参加が呼びかけられました。

宴は川越代表幹事の乾杯でスタート、それぞれが思い思いの話題に花が咲きました。

トピックスとして、昨年の年次総会で、最高顧問自身も書いておられる書籍「おちおち死んではいけない」毎日新聞社刊を二割引で購入の幹旋

をして頂きましたものを、会場にて販売したところ皆様快く買って頂き、幹事の事前購入を含め計30冊が完売しました。

楽しい宴もあっという間に時間が経ち、最後に

吉井会員の中締めにてお開きとなりました。

次回は、8月2日(日)に開催予定です。是非とも多数の参加をお願いします。



東京支部活動報告

— 一泊旅行実施 —

東京支部では6月12日、13日と1泊2日の旅行を行いました。6月12日(金)は、栃木県の大日向CCにおいて2組、6名でゴルフを行いました。

当日は雨の予報のところ幸運にも晴天に恵まれ皆元気一杯のプレーで大汗を流し日頃の運動不足の解消をすることができました。結果は予想通り谷口さんがベストスコアの栄冠に輝かれました。おめでとうございます。



夜は観光組の4名と合流し、ゴルフ場近くのあゆ料理「明星」で、鮎づくしの料理に舌鼓をうちながらよもやま話で大いに弾み、心行くまでお酒をいただき、店先に蛍が飛び交う風情を楽しみ、一

同楽しいひと時を過ごすことができました。夜は、かんぼの宿「栃木 喜連川温泉」に宿泊。温泉組とカラオケ・卓球組に分かれての有意義な夜を持つことができました。

会員寄稿文

デトロイトは生き残れるか？ 塚本 時弘

次男が08年10月20日から2年間、デトロイトディーゼルで勤務することになり、妊娠中の嫁と3歳の孫を次男の所に連れて行った。10月30日から1



1月16日まで3週間弱、デトロイト近傍のNOVI市の次男宅で生活し、デトロイトのGM本社やフォードミュージアム、カナダのウインザー市、NOVIにあるシボレーの販売店やハマーの販売店等を見て回り、GMは破綻するなと感じた。案の定6月1日に破産。今後どうなるかを含めて見聞したことをお伝えする。

11月15日にデトロイトのダウンタウンに行った。次男が会社で車から出るな。外をじろじろ見るな。写真を撮るな。指さすな。以上のことを守らないといつピストルの玉が飛んでくるか判らないと脅かされたらしい。確かに気味の悪い光景だった。売り家と貸し家だらけの町を傘も差さずにたたずんでいる人たちがいる道路。デトロイト川を渡ったカナダのウインザーは同じく売り家と貸し家がさらに多かったが人っ子一人見なかった。

自動車産業が不況になって両市共人が激減したようだ。GM本社のあるルネッサンスセンターに行き、地階のショールームでGMの車今昔を見ようとしたが閉鎖されていた。土曜日なのにおかしいなと思ったが、

カナダを見物し、帰ってきて72階にあるレストランで食事をした。帰りに地階の見える所まで降りるとそこではタキシードとドレスのカップル数百組がパーティーをしていた。潰れかけの会社がこんな事をしていいのかと次男と話した。その二日後、ワゴナー会長がワシントンに呼び出され、自家用機で行ったことでつり上げられた。シボレーの販売店に車を見に行ったが、日曜日は休みだし、平日に行ってもまるでやる気のない態度だった。家の近くのハマーの販売店は開いているのだろうか。

次男は会社から与えられた車がV6 3.9リッターのGM製ヴァンであったが後に2年間貸与されたのがクライスラー製V8 5.8リッターのセダンであった。この車は“300”と言う名称であるので300吋³すなわち4.9リッターのはずが何時の間にか5.8リッターまで拡大



している。1気筒725C.Cと軽自動車の総排気量よりも大きい。自動車用エンジンでは1気筒400C.Cが最適と思われる。600を超えると大きすぎる。200以下は小さすぎる。アメリカの車作りはコスト優先、設備投資や開発投資をしないで馬力をあげる＝排気量アップでやってきた。いまだにラダーフレーム（梯子型シャーシ）を使い、上物のボディーをセダ

ン、ヴァン、ピックアップと張り替えて使い回している。一見共通化で良いように思えるが、とにかく重い。日本やヨーロッパではモノコックボディでフェンダーや屋根も強度部材として軽量化している。最近低燃費低公害自動車を開発するとの条件で資金援助が引き出せそうになってきたが、GMが発表していたのは電気自動車で、ボンネット、フェンダー、ルーフ、ドア、トランクフードすべてグラスファイバーで軽量化できたと言っていたが、この構造は従来の重いラダーフレームだろうと思う。電気自動車は開発が容易で、自動車メーカーでなければ出来ないことはない。むしろパナソニックや日立と言ったモータ、バッテリー、コントローラ、メータパネル等主要コンポーネントを供給しているメーカーがその気になればすぐに生産できる。さらにアメリカのような広大な国土で電気自動車はなじまなく、せいぜい資金援助のために安直に作り上げた製品だろうと思われる。

本筋の小型軽量低燃費高性能のガソリンないしは

ディーゼル車を開発するためには最低4年は要する。これに要する開発技術陣の実力は？1970年から今日までアメリカ発の新技术はお目にかかっていない。ターボ化、DOHC、多弁化、筒内ガソリン噴射、ハイブリッド車、CVT、低公害ディーゼル、等々日本とヨーロッパが成し遂げた技術ばかりで会社が存続する、何を売って行くのだろう。

UAWの存在も再建の大きな障害であると思われる。改善をして効率アップすると人員削減されるので改善案は採用されないそうだ。デトロイトで見る人々はとにかく太い。小型車を作る上に於いてあの巨体で作業できるのかしら。またこの人達及びOBの医療費を負担しなければならないそうだが、日本のメタボとは桁違い。デパートのズボン売り場にはウエストが80インチ（2m）の物が普通に売られているのだから。自動車作りは日独に任せた方が良さそうだった。

北極ルートを開拓したSASの偉業 寺西 英三

「100年に1度の世界同時不況」とかで、世の中はすっかり意気消沈してしまっていますが、
今から52年前の1957年2月24日にSA



S（スカンジナビア航空）が初めて北極ルート（北回りルート：コペンハーゲンーアンカレッジー東京）の運行を始めました。「東京ーコペンハーゲン間、南回りの52時間を当時のプロペラ機で、北回りを32時間に」画期的に短縮したものでした。

それを開拓したのが何故、SASだったのか、その辺りの事情をもう一度振り返ってみましょ

う。

北欧のスウェーデン、デンマーク、ノルウェーの3カ国共同運営によるSASは、決してBAやAFのように大きいものではありませんでした。

当時は東京ーヨーロッパ間の航空路は勿論、南回りで、そのルートは、溯ること更に20年、1937年4月にあの朝日新聞社「神風号」（単発2人乗り）が東京ー台北ーハノイービエンチャンーカルカッターカラチーバスラーバグダッドーアテネーローマーパリーロンドン間：15,357kmを94時間⑰分、実飛行時間：51時間19分で飛んで、世界新記録を打ち立てた時のものと、東南アジアの一部を除いてほぼ同じです。

戦後12年ほどの当時の日本は、英、仏、オランダ等から見れば、旧植民地の先にある、敗戦国のちょっとした街といったところだったでしょう。彼等の関心が専ら南回りルートにあり、未知の危険を冒してまで東京を短時間で結ぶ北回りルートには、関心はなかったとしても不思議では

ありません。

北欧諸国は南回りルートにこだわる理由はなく、北回りルートをそれ自体で評価することができたでしょう。当時の日本は、未だ外貨規制が厳しく、北欧諸国とのビジネス客の往来も極く限ら



れたものだった筈です。そんな時代にSASを北回りルートの開拓は、一体何だったのでしょ。北極圏に近く、長年に亘って平和目的で、その気象状況の調査研究を進めてきた北欧の国々としては、いっにはやはり彼等が情熱を燃やし続けてきた極地征服の1つの形として、北極を空から見下ろすことがあったのでしょ。しかし北欧-日本間を行き来する乗客だけでは、とても採算は採れないと思います。

それは北回りルートの上では地の利のあるコペンハーゲンを乗り継ぎ地として、ヨーロッパの全主要都市と東京との間のお客を、所要時間の短さで掻っさらおうとする戦略だったのでしょ。今でいうハブ空港としての戦略です。南回りと北回りとの約20時間の差は、コペンハーゲンでの乗

り継ぎの時間や面倒さを補って余りあります。

日本との間の乗客数が次第に増加するとともに、他の航空各社も次々にこの新ルートに参入しました。1960年代に入ってジェット化が進むとともに、ストップオーバーの少ない北回りルートの優位性は一層高まり、世界情勢の変化もあって南回りルートは遂には運行停止となりました。

その後、旧ソ連のアエロフロート社がシベリアルートを開き、1970年3月からは日本航空もこのルートに進出しました。当然、他の航空各社もこれに続き、シベリアの空の規制緩和による便数の増加と約12時間という短い所要時間の圧倒的な優位性から、さしもの北回りルートも次第に意義を失い、遂には運行停止となりました。

しかしシベリアルート開設の呼び水ともなったSASの北回りルート開拓は、現在盛んに論じられているハブ空港戦略さえも含んでいたと考えると、その意義は決して小さいものではなかったでしょう。

私自身の勝手な推測も含めて色々書き並べましたが、50数年を経た今日、北欧の人達自身が彼等の先輩の偉業をどのように見ているのか、興味のあるところです。地球温暖化の影響で北極海の夏場の氷原がどんどん減少し、白熊の生存さえも危ぶまれています。そんな時に北欧の国の幾つかはそれを逆手に取って、北極海を通る東アジアへの夏場の最短航路開拓に虎視眈々としています。こんなところにも、彼等の先輩の偉業が脈々と生きているのではないでしょか。

OB会連絡

新入会員紹介

第13期に入会された16名の新入会員を紹介します。(敬称略)

1213	高田 康光	1303	島田 剛志	1308	脇山 芳博
1214	橋本 孝司	1304	横井 廣秋	1309	西田 裕一
1215	石黒 英憲	1305	澤田 博	1310	海野 興一朗
1216	小山 忠夫	1306	湯浅 一郎	1311	森山 晶成
1301	三笠 元	1307	高嶋 義明	1312	丸山 博
1302	福田 弘秋				

新入会員懇談会開催

平成21年6月12日（金）午後から、OB会室と本社第31会議室にて、今年度新たにOB会員になられた方々の中、**湯浅一郎さん、澤田博さん、高嶋義昭さん、西田裕一さん、丸山博さん**（50音順）の計5人に来社頂き、昼食をとりながらお互い懐かしく、また親しく懇談の場を持ちました。（幹事の対応、小谷、山本、川越）

初めに、OB会およびキャリア&ボランティア部会の対外関係の経緯と現在及び今後の活動等について説明、質疑応答も交え、少しく理解を深めて頂きました。

その結果早速、「釣りクラブ」の設立や、「新現役チャレンジ支援事業」への参加の申し出もあり、退職後皆さんそれぞれ自分の目的に向かって、日々大変ご多忙の様子でしたが、OB会の活動にも前向きに参加願えるとのことで今後大いに期待致したいと思っています。

今期OB会の活動スケジュール残として、びわこ工場見学とミニ懇親、鴨川納涼、夏の懇親会等そして「年次総会」と目白押しとなっていますが、全OB会員の皆様も多数参加頂き、今回新入の方々を大いに歓迎して頂きたいと存じます。

会員の訃報

市岡 達郎さん

長らくOB会員でした京田辺市在住の市岡達郎さんが、去る4月10日お亡くなりになりました。生前、お得意の絵画の展示を頂くなど、OBの行事に大変ご協力頂きました。心から哀悼の意を表します。

秋山重之さんご令室の三重子様、去る6月17日にご永眠されました。心から哀悼の意を表します。

第14期年次総会ご案内

第14期年次総会の日程が決まりましたのでご案内します。

総会の詳細につきましては後日、ご案内します。奮ってご出席いただくようお願い致します。

- ・開催日時：平成21年10月30日（金） 午後1時～
- ・開催場所：株式会社堀場製作所 本社 大会議室

総会終了後、食堂において懇親会を開催します。

堀場OB会ホームページ閲覧について

堀場製作所OB会のホームページには「会報」を掲載していますが、個人情報等が記載されているため閲覧には「パスワード」が必要です。

手順としては、会報アイコンをクリックするとパスワード入力画面が表示されますのでパスワードを入力して下さい。**パスワード horibaob**

なお、カテゴリ別に整理が出来ていない部分があり、見難いと思いますが、リニューアルに向けて作業を進めていますので今しばらくご辛抱下さい。

◆ 堀場OB会ホームページ

<http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor/>

ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

◆ 朽木FUN HOUSE増築工事完成

平成21年2月11日増築完成を祝って、滋賀県及び高島市の皆様へのお披露目を兼ねて竣工式が行われました。今回の増築で、従来の約3倍の

スペースとなり、120名が収容できる大きな研修室、明るく開放的な食堂スペース、ゆっくり寛げる暖炉・ラウンジ、ミーティングルームそしてシャワーブース等々、ビッグに生まれ変わり、ま

さにワンカンパニーとして、グローバルに戦える人材の輩出拠点となりました。我がOB会としても一度見学をさせて頂いて、年次総会場として使わせて頂きたいと企んでいます。

◆ びわこ工場完成

平成21年5月15日に竣工式が行われ、正式オープンとなりました。JR湖西線の「おごと温泉駅」の近くに建ち、対岸に近江富士を望む琵琶湖の高台に設立されたこの工場は、鉄骨・一部鉄筋コンクリート5階建てで、1階は半導体/自動車

計測システム両製品の大型化・生産量増加に対応したスペースで本社工場の3倍の規模となっています。3～4階には、分散していた製品・部品倉庫を集約し、在庫・業務の一元管理によるコストダウンが可能となりました。去る6月24日、別稿にも報告の様に、OB会からも早速22名が見学に伺いました。現在は33人が働き、顔なじみの方々にも多数お会いし、美しい工場で皆さん頑張っておられたことが、大変印象的でした。

編集後記

早いもので、昨年の総会后からもう間もなく、次の総会の準備が始まっています。今期は約束されたとおり年間スケジュールの作成により、確実に諸行事が遂行出来ていることは、皆様の参加意識の高まりとと思っています。そのため会報のニュースソースも项目的には困らなくなってきましたが、内容的にはどんどん新しい方の自由な投稿の増加が待たれます。勿論速報的には、OB会ホームページがありますが、全会員の方が見ているわけでもありません。ペーパーメディアとして、今後の足跡にもなる会報をますます充実させて行きたいと思っていますので、全員のご協力をお

願います。

今、ほとんどの企業は大変な経済恐慌に見舞われていますが、OB会としても、親会社の認知度のさらなる向上に繋がる市民活動にも積極的に参加して行く狙いで、鴨川を美しくする会を中心としたボランティア活動に正式に加盟して活動を始めました。新しく作成したホリバのユニフォームを着用して大いにPRの実を上げて行きたいと存じます。今後望まれていることは、新期入会者の増加もあり、各活動に対して、参加者の確実な増加と広がりが望まれています。

*
* **堀場製作所OB会** *
* 〒601-8510 *
* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 *
* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 *
* URL <http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor> *
* E-mail hor60-obkai@k2.dion.ne.jp *
